

昭和八年

一月一日（日曜日） 迎へたり、今日の日や。午前八時一緒に雑煮に新年を祝ふ。爾後年始廻りに出掛く。

新春にふさわしき晴天なれば街頭美装なしたる人の往来しげし。

夜、本間君、桜林君お友達の家に訪問、残りの四名麻雀に過ごす。

一月二日 一君昨夜のたたりか床に臥す。気の毒の至りなり。

桜林君、逢山初登りす。広瀬君夜遅し。

一月三日 広瀬君、坪田君三周年なれば[練出?]遭難場所をとむらひ方々逢山初登行。坪田家へ電報を打つ。

一君の風邪いよいよ本格的なり。

夜、本間君帰省さる。

日支兩軍山海關で衝突す。日本軍山海關占領と。

一月六日 朝の汽車で畑君帰省さる。いよいよ賑やか?

山海關事件余り拡大の模様なし。

米国前大統領クーリッジ死すと。多聞師団凱旋す。

広瀬君今夜も遅し。

一月七日 朝、大島君帰舎す。広瀬、桜林、若松の三君手稲登山す。広瀬君今朝七時帰りて睡眠不足にこの元気、恐るべし。

夜、大島君の部屋にて茶る。例トラ吹く(マ マ)。

一月八日 いよいよ休暇も今日一日、朝、天辰君帰舎、その勇ましき勢、すぐ富貴堂にてレコードを仕入れて凱旋將軍の如し。その意気や壮なり。夜、食堂で天辰君のレコード鑑賞す。

一月九日 あさ、大岩君帰舎。こうして寄宿舍は一日一人づつ賑になる。殊に大岩君の如きは三人分も。夜、四号で大岩君のお土産を頂く。

岡田海相辞し、大角大将海相となる。

本日よりいよいよ学校始まる。何処も授業はないらしい。

一月十日（火曜日） 秋葉君、朝帰舎。

本日よりいよいよ本当の学課が始まる。

一月十一日（水曜日） 朝、金森君帰舎す。雪降りスキーに出掛ける者多し。

一月十二日（木曜日） 夜、本間君帰舎す。寒さ烈し。本年最初のシバレ。

一月十三日（金曜日） 本日、零下十四・五度、寒さはげし。それにもめげずスキー盛んなり。

一月十四日（土曜日） 夜、佐々木君帰舎す。本日夜、北大スキー選手宮村六郎氏、大野博士、栗谷川氏と共にホルメンコルススキー五十年記念スキー大会出場のため出発す。がんばれ、がんばれ。

午後、増井、大島両君藻岩、天辰、秋葉、大岩の諸君円山方面。

一月十五日（日曜日） 雪、朝に至りて少々積る。大島君遙山へ、帰り少々遅し。増井、若松の両氏砥石へ。中の沢でブッシュになやまされる。

天辰君、手稲予定の所汽車におくれ、くさる。藻岩へ。同行者スキーを折ると。康君より愉快的な便りと櫓の音原稿募集して来る。

大岩君松竹座へウイリアムテル演奏の為、本日より出勤す。

一月十六日（月曜日） 夜、本年第一回月次会宮部先生邸に行はる由、発表さる。委員左の如し。

若松、天辰、秋葉、金森（敬称略）

[欄外に 聯盟十九ヶ国委員会開かる。]

一月十七日（火曜日） 朝、永井君帰舎す。夜、永井君の部屋にて御土産開馳さる。

一月十八日（水曜日） 本日、大吹雪。よる、康君帰舎す。これで全部そろった。

康君、断然スソ切りをして来て皆にひやかさる。而して丸アタマ残り少し。一君もいよいよ本格なれば長髪組いよいよその勢や思ふべし。

共産党検挙解禁発表さる。河上肇、大塚金之助氏の如きも一味としてその指導者として中にあり、判事尾崎陞等の如きも一味として所謂世人を驚愕さす。

一月十九日（木曜日） 夜、山根君の父君より羊羹の寄贈あり、二号室にて頂く。松島屋からもどうしたのか御菓子の進物、買って呉れとか？

東京市長永田秀次郎氏、辞職す。

一月廿日（金曜日） 変わりなし。 聯盟の和協会議成立の見込立たず。

一月廿一日（土曜日） 桜林君、講義がないので遙山へ。永井、康君の二氏午後藻岩へ行く。

夜六時より宮部先生邸に御招待あり。本年は舎生全部に珍しく多数の先輩、鈴木氏、前川氏、亀井氏、犬飼氏、山口氏、時田氏加わりて色々楽しく一夜を過ごしたり、カルタ、トランプ、会長、会計、書記、ジェスチャー等先輩も青年の昔に還り舎生と一緒に和気藹々と遊びふける。先生の御邸を辞したのは十一時半だった。

一月廿二日（日曜日） 天気良好、暖し。早朝より左の六人、札幌岳へと出発した。広瀬、桜林、大島、永井、増井、若松の諸氏。充分に高山の粉雪を享樂して定山溪への下りの途中、大島君スキーを折って気の毒の至りだったが、修繕して一緒に下りられたのは幸いと云わねばならない。

六時帰舎す。秋葉、康、金森の諸氏は藻岩へ登りしとか。

本日、月寒聯隊の戦死者の遺骨着札、慰霊祭月寒に行はれ、有志は参拝せりと。

インターカレッジスキーは昨日より飯山に於いて行はれたが北大今年は宮村の諾国出発、選手の不足等に依り予想の成績を上げ得ず、十八軒に黒田一等、コンバインドも同様なが、外余り振はず、ジャンプ井黒三等、五十軒に西と外一人最後に入賞、リレーに三等と云ふ成績で計二十七点を取り、昨年の覇を早大の三十八点に奪はれ二位に下る。札幌郊外に行はれた中等学校スキー大会は小樽商業の勝ちとなる。

大倉シャンツェ ジャンプレコード五十七米、小樽中学の浅木なる人が作った由。全日本スキーには六十米突破するならん。

一月二十三日（月曜日） 寒い、身を切られる様な寒さ、朝零下二十一度半あり。

国際聯盟いよいよ和協ならず、日本に第十五条第四項適用するらしく日本は又いよいよ最後の腹をきめるらしい。今後の動静注目に値する。

よる、水産生明日化学の試験とていそがしげに勉強している。

一月二十四日（火曜日） 今夕、新旧委員事務引継ぎを完了。

一月二十五日（水曜日） 午後より降雪。麻雀に一夕を楽しむのもよからう。

第四項による勧告案起草委員会なるもの未だグズグズしている。

帝国議会は開会中、今日、院内閣議で最高決意を決心した。

一月二十六日（木曜日） 少雪。晴。藻岩（一君）、戸別沢（天辰、金森、佐々木、康君）等、出向く者があつた。夕食後決算、食費六三・五銭の所、舎で九円四七銭補助、六〇銭とす。

一月二十七日（金曜日） 夜の急行で本間君就職戦線に出動。農林省の就職試験との事。

大岩君理学部スキー大会に出場、スキーを折損して来る。藤田康君、進藤牧場より藻岩の山頂を極めしの帰途、密林中で右スキーを折る。

一月二十八日（土曜日） 増井君、些か健康を害す。稍や温し過ぎた観あり。

午後、スキーに行く者多し。秋葉君幌見方面へ級友と。[欄外に 本間君本日より欠食]

一月二十九日（日曜日） 増井君、起床せず。広瀬君も軽微な感冒を口実に休息をとるとの事。健康増進連中はスキー散策に出かけた。

中川内科入院中の山根君、足習しを兼ねて来訪。

永井君、単身藻岩。佐々木君、戸別方面。秋葉、天辰、金森三君幌見方面。以外の諸氏街頭進出言を待たず。[欄外に 欠食 増井君]

一月三十日（月曜日） 何時積もったか、積雪十数糎を加ふ。桜林君、藻岩へ。

聯盟方面まだ事態最後の急転を見ず。代表部の請訓に対し強硬な回訓を發す。

一月卅一日（火曜日） 広瀬君、増井君元気恢復。

二月一日（水曜日） 増井君、登校せるも夜より復び不快を覚ゆ。

広瀬君、終夜不歸舎。

二月二日（木曜日） 増井君、不能起床。胸部に腫物を發す

六日 手稻登高の件、十日 ピンポン大会開催の件、運動部より発表。

二月三日（金曜日） 今夕七時、本間君就職試験受験終わり歸舎さる。

増井君、胸部腫物化膿烈し。支那紙にも聯盟脱退論現る。

二月四日（土曜日） 桜林、広瀬両君、夜十時十五分札幌発列車で山に向ふ。午後、金森、康両君藻岩征服。増井君、離床す。[欄外に 明日より本間君欠食 終わり]

二月五日（日曜日） 大倉山シャンツェで朝日新聞主催ジャンプ大会。天辰、秋葉、金森君等見物。一君は藻岩へ。若松、永井、康君は遙山へ。大島君は友達と奥手稲より 発寒經由札幌へ快走。増井君、腫物軽癒に向ふ。

二月六日（月曜日） 恒例により手稲登山。八時三十分札幌駅発、パラダイス着十一時十分。ヒュッテ発十一時半。一時十五分全員九名頂上着。一時半、下降の途につき幾多の話題を山頂のお釜に残してヒュッテ着二時十五分前後。小憩後大曲經由、好調子を以て三時五十分軽川駅着。四時三十分発、帰札。畑君等多忙中にも拘らず参加あった事を感謝する。

増井、佐々木両君不健康により、天辰君負傷の為、及び本間君、広瀬君、桜林君を除き全員参加す。

開校記念式には天辰君等出席す。夜、ニロカウシュペ并トメラウシの二山を征服して広瀬、桜林両君帰舎す。

二月七日（火曜日） 夜、山根君退院帰舎す。病苦数月此処に全快せられたる喜を俱に分かたん。聯盟方面依然暗雲冥低、請訓に次ぐに回訓を以てして和協手続きによる解決か。十五条第四項の勧告案に移り拒絶、脱退に進むかの岐路にあつて敢然既定方針を強調している。即ち最後まで和協の努力を捨てず而も最悪の場合の決意は確固だ。

[欄外に 昨日で広瀬、桜林欠食終わる]

二月八日（水曜日） 昼食の席に山根君を見るも久しぶり。夜は四号で殆ど全員で大岩君新購入のピアノ協奏曲（ベートーベン）に耳を傾く。

[欄外に 今日より山根君欠食ならず]

二月九日（木曜日） 夜、大塚君来訪、本間君、大岩君等と会談。館山で九〇式飛行艇覆没。陸軍省熱河の軍備工作につき妥当性を声明す。夕刊によれば聯盟は和協手段を捨てぬらしい。

二月十日（金曜日） 札幌神社外苑烏森スキー場に於いて全日本スキー競技開始さる。予科三年四人組撮影に行ったと云ふ。

広瀬君、午後より藻岩へ、進藤牧場を飛ばす。

康君、幌見峠より藻岩の夏道に至る間の尾根を縦走。

末尾ながら本日戦友に捧持されて凱旋された戦没五勇士の遺骨を迎ふ。予科を代表して一年生道庁付近に整列迎送す。舎の金森、佐々木両君も加はる。

二月十一日（土曜日） 建国祭に当たり市公会堂に於いて対国際聯盟道民大会を北海道国防義会主催の下に行はる。北大の和田、倉塚両教授の講演、第二五聯隊長永見大佐の講演等もあり盛会だった。その後大通りで国旗掲揚式に次ぎ愛国行進を行ひ、各団体之に参加し、予科三年の諸君は大学を代表して参列す。御褒美に月曜が休暇になって彼等無意根に登らん事を企る。

増井、広瀬両君三段へ。早く発ち、早く帰る。

十八日に卒業生送別月次会開催の件、副舎長より発表。その委員藤田一、永井、増井、

佐々木、藤田康の五氏。

二月十二日(日曜日) 増井君、札幌嶽へ。予科三年生四人 八時頃出発ムイネに向かふ。ヒュッテに一泊の予定。欠食あらず。

(運動部より十八日ピンポン大会中止発表)

二月十三日(月曜日) 四人夕方帰る。吹雪の為頂上に行けなかった由。

聯盟、日本の懇切な説明にも誠意を示さず。政府、和協の失敗は日本に全然責任なしと発表す。

二月十四日(火曜日) 月次会委員第一回打合会を十一号で。

二月十五日(水曜日) 月次会委員第二回打合会を十一号で。

第四項による勧告案草案の内容紙上に掲載さる。

満州国の成立に関し、帝国と所見を異にする事甚し。

之を総会に付議する事となる。総会で之を可決する場合は代表の引上げを許可する旨の回訓、発送さる。

夕方、宮部先生が御来舎、財団法人問題で畑君にお話しがあった。

予科三年生、学部入学手続完了す。

二月十六日(木曜日) 畑君、法人問題で市役所へ。

二月十七日(金曜日) 月次会委員、買い物に行く。大雪る。

二月十八日(土曜日) 増井、康、若松、藻岩。佐々木、幌見より藻岩。金森、三角。桜林、広瀬、三角・円山方面へ。

夜は送別月次会。先生、時田、平戸三氏の御来舎を頂く。送られる畑、本間両君就職も決定しているので和気藹々の裡に両君及び舎の前途を祝福する如き激励と忠言が交わされた。

尚、会場で来年度副舎長選挙を行ひ、満場一致で広瀬君を推す。

散会后、来学期委員選挙を行ふ(括弧内は票数)。

会計部 若松君(9) 食事部 永井君(12)、増井君(11)

文芸部 金森君(8) 運動部 桜林君(14)

衛生部 秋葉君(16)

同次点を付記す。

会計部 金森君(5) 食事部 金森君、桜林君(各4)

文芸部 桜林君(6) 運動部 秋葉君(2)

衛生部 なし

二月十九日(日曜日) 夜の急行で山根君帰郷の途につく。遙山で予科生三名遭難の記事紙面を賑はす。三名とも無事だった。

午後一時頃から天辰、金森、佐々木三君が出掛けただけでスキーに行く者日曜のわりにはとても少なし。街頭進出は此の限りに非ずか。

二月二十日(月曜日) 橇の音完成。廻読開始。藤田一、康両君咽喉を痛む。

連盟規約十五條四項による勧告案付報告書が二十二日総会で可決採択される場合代表の引上げ断行正式に決定さる。聯盟脱退通告は松岡代表帰国後、正式国内手続を踏んで実現する事となる。陸軍は熱河の討伐を決意す。

二月二十一日（火曜日） 副舎長より本月の決算を二十五日行ふ旨発表さる。

予科桜星会送別会。若松、永井両君藻岩へ。

二月二十二日（水曜日） 廟行鎮三勇士の一周年お来た。聯盟脱退を前にひかへ、各方面に氣勢は盛んだ。放送協会では「愛国歌の夕」を計画す。堀内敬三氏の言を借りれば欧米諸国の有名な国歌は皆直接戦争に由来するのに、吾が「君が代」は唯一つ幾千年の昔から優雅にして崇高な皇室中心主義の国民的信仰を唱った古歌である点、其処には平和を愛好する事限りなく而も一度び発すれば勇氣凜たる忠誠の念が表れているのだ。帝国よ、愛と正義の本然の姿を邁進せよ。

二月二十三日（木曜日） 広瀬君、欠食。病後帰省中の山根君より青森発の葉書が来る。寒く、波も高く、熱も出たらしく相当苦しい旅らしい。只管に健康恢復を祈らう。

二月二十四日（金曜日） 東京時間今日の午後六時半より勧告案採択の聯盟総会行はる。増井君、又床に就く。

二月二十五日（土曜日） 夜、決算を行ふ。舎費一人四一銭弱、食事部の評判よし。 CONSTANT 七円十五銭とす。ジュネーブに於いて総会勧告案を採択し松岡代表劇的演説をなす。熱河攻撃の報、紙上を賑はす。

二月二十六日（日曜日） 試験近づき、各方面への進出振るはず。

二月二十七日（月曜日） 聯盟、満州国問題処理の為、諮問委員会を作る。

二月二十八日（火曜日） 春の香が芳ひ[ママ]はじめた。日光の反射も力強く温かい。山根君より二十一日安着の報来る。熱も大して出ぬらしい。兎も角一日も早く全快を祈らう。

帝国政府聯盟に陳述書呈出。

三月一日（水曜日） 舎内試験の前の静けさ。阿蘇鳴動す。避難列車待機中。熱河攻撃進む。

三月二日（木曜日） 大島君、試験始まる。

今朝二時半、強震に夢を破らる。（尤も、全然知らなかったと称する沈着無比な偉人が数人居る）。新聞によれば東北地方の東海岸方面が最も被害激烈らしい。

夜九時より雛祭りに汁粉を飲む事を食事部計画、実行す。

広瀬次期副舎長より来学期の組合せを発表。天辰君と佐々木君。秋葉君と金森君の四人。他は一人。

三月四日（土曜日） 承德（熱河）に入城す。夜、映画館に行く者数名あった。三

月五日（日曜日） 晴。桜林君、三段天狗方面へ朝早くから出かけた。

夕食には留別コンパの代りに牛鍋をつつく。

米国は経済大恐慌。銀行休業令四十八洲に布かる。

三月六日（月曜日） 米国の経済恐慌の余波で日本でも米穀市場以外の取引全部中止さる。 畑君論文を呈出、一年克苦の結晶。

三月七日（火曜日） 広瀬君、大島君予科生等試験中のもののみ多し。 康君、午後藻岩へ。 ルーズベルト新任式後数日を出でずして非常時に直面す。四日間モラトリアムを発表、その間金輸出を禁ず。 バーナード・ショウ陸相を訪問す。

三月八日（水曜日） 予科三年生試験終了。一君、若松君風邪気味。

熱河の支那軍総崩れ、蒋介石は広東の共匪と和協し、北支收拾に出動す。学良敗戦の全責任を湯林に帰す、湯は逃亡、行衛不明。

三月九日（木曜日） 広瀬君、数学の試験に臨む。予科生全部終了。

畑君、卒業記念にレコードを寄贈さる。

三月十日（金曜日） 陸軍記念日。 早朝に佐々木君、夜、金森君、藤田一君等帰途に付く。

[欄外に 欠食 今日より佐々木君 明日より金森君、藤田一君]

三月十一日（土曜日） 若松、永井、藤田康手稲山の家に行く。昼食に手製のサンドウィッチ、食パン、蟹缶等一人当たり十一銭弱適度の水分を有し好適な糧食なりし由。彼等三人欠食。

南加洲方面は大激震、サンピドロ油田炎焼中とのニュース。

[欄外に 二日間欠食 若松、永井、康]

三月十二日（日曜日） 前記三人、山より帰る。 秋葉君、増井君、風邪で臥床のため忍路実験所に行けず、顕微鏡を枕頭に飾って発熱に悩む。天辰君も風邪気味。

三月十三日（月曜日） 熱河平定戦による本道派遣将兵の犠牲者発表さる。 学良下野し、何応欽後を襲ふ。

三月十四日（火曜日） 若松、永井、康三君、朝八時半発で手稲に向ふ。五時過ぎ円山方面を経て帰舎。康君左スピツフェを折って来る。修理員役に立つ。

三月十五日（水曜日） 本日より当分舎史 [誌カ] を広瀬君引きうける。

朝陽の光は春のしのびよっているのをよくあらはしている。本間君卒業で朝六時から頑張られる。 桜林君の試験午前に終る。大岩君は午后に終る。残るは広瀬、大島、大岩の三君なり。それに加へて本間君の論文なり。

夜の急行で藤田康君、永井君帰省さる。康君は二等におさまられる。早く両君の新角にお目にかかりたい。

本間君のクラスの離別会を定山溪にもたる。

忍路の実験を棒に振った水産生二人もそろそろやつれた身体を廊下に出す様になられた。

三月十六日（木曜日） 夜八時で天辰君帰省さる。増井、若松二君「花嫁の寝言」を見に……。残るもの六人、六号でお茶をのんでだべる。

[欄外に 康、永井君欠食十六日ヨリ]

三月十七日（金曜日） 朝九時四十七分で若松君帰省さる。これで予科生全部帰省さる。船に頗る弱いLong氏頗る天候を気にしている様でした。一日中吹雪たり、晴れたり 時雨時の秋の様だった。

皆、最後のフンバリで居る。コーヒーの力でやっつけ様とするものも六号辺にあり。論文制作中の本間君遂に風邪のためにたほれる。彼のために一日も早く起床されんことを。

[欄外に 天辰君 若松君]

三月十八日（土曜日） 早春らしい天気のいい日だった。二週間の憂鬱なる試験より開放されたるもの大島、広瀬の両君、これに大岩君の物理化学実験法の Test も終わって すべてほがらかである。

桜林君、本日より三日の予定で余市嶽に向ふ。夜は皆別荘にしけこむ。本間君一日床につかる。

三月十九日（日曜日） 大島君、九時四七分で奥手稲にスキー行、蓋し試験の鬱ふんばらしなり。途中、先生に会ってハルカ山に行かれた由。怪我人のために昼食がとれる銭 函でナベヤキ三杯を空腹にまかせ食ったとは・・・。

三月二十日（月曜日） 雪がとける。そして流れて行く。本間君も床をといて起きれる。夕六時の汽車で増井君、八時で秋葉君帰省する。これで残るもの全部、角帽となる。広瀬君、三宅教授より論文の題もらって来る。宮部舎長の御招待で新旧副舎長及本間君、舎長の御宅で夕食をたまはる。色々のことについて話し合ふ。畑君新調の背広サラリーマンの前途晴々なり・・・。桜林君、本日帰らず。二号室で十二時までだべる。

三月二十一日（火曜日） 春季皇霊祭。

俗に「暑さ寒さも彼岸まで」って言うのに札幌じゃ今朝から雪が降り積もっていた。山じゃ吹雪いていることであらう。本間君は論文に、畑君は帰る支度に多忙なり。のんきなのは一人広瀬君のみ。夜の急行で大島君帰省。大岩君は明日とか。桜林君元気一ぱいで帰舎さる。

[欄外に 二十一日 秋葉、増井君]

三月二十二日（水曜日） 曇天の一日だった。暖かくて雪がとけて行く。

本日も本間君、論文で多忙なり。畑君に小さき訪問客あり。広瀬君とトランプをする。夜の急行で大岩君帰省さる。またまた淋しくある。 賄の女中の更迭あり。 [欄外に 大島君]

三月二十三日（木曜日） 早朝六時十分の汽車にて広瀬君、桜林君ニセコ行。若者の元気なる事、驚く許りなり。

本間君、畑君の二人だけとなる。本間君の論文多忙を極む。

三月二十四日（金曜日） 晴れたかと思へばアラレ降り、止んだと思へば吹雪となる変な天気である。 深更迄、本間君の処にて計算機の音聞こゆ。

三月二十五日（土曜日） 夜九時四十分にて畑君ガイセンす。

思い出せば六年間のこの寄宿舍生活は人生に於いて最もはなやかな時代であろう。そし

て前途に希望をもつ時なり。[去るもの日々にうとし] とは俗言なり。この寄宿舍を出て行っても舎の事は永久に忘れじ。否、忘る可からず。この六年の間はぐくんでくれた青年寄宿舍に栄光あれ。

残る者三人なり。本間、桜林、広瀬三氏　桜林、広瀬は此の日の七時十分の急行で二セコより帰る。

特別室の空いていることは我らにとってどんなに淋しみであらう。

三月二十六日（日曜日）　　天気がよくて町はとてもの人出であった。本間君、最後の頑張りで論文の完成を急がる。

三月二十七日（月曜日）　　夕、号外が来て「日本が聯盟を脱退する旨」の詔がカンパツされた。はじめから信用のおけぬ聯盟なれば一日も早く退いた方が当を得ている。

舎内はやはり三人なり。

三月二十八日（火曜日）　　本間君、論文完成し後は卒業を待つのみ。顔面朗らかなり。寒風が吹いているすごい天気の日だった。夜、本間君、「花嫁の寝言」を見聞に。桜林君は夜の急行で帰るつもりで駅まで行った所、今日は「大安」のため汽車は満員であるのと、例の気まぐれが出て遂に帰らずに舎にもどる。

大塚君も混じて四人で茶をのみながら一時まで二号でだべる。本間君、今後のプランを立てらる。

三月二十九日（水曜日）　　本間君、知り合ひの所に御挨拶にまはられる。

三月三十日（木曜日）　　大したる事件なし。広瀬君、夜、山の合宿の相談に富貴堂に行く。本間君、同窓会の送別会に行く。

三月三十一日（金曜日）　　色んな意味で変化の多い吾らの昭和七年度も本日で終りかと思ふと何となく心残りのする一日である。夜、広瀬君、友達の家遊びに行く。

昭和八年四月一日（土曜日）

学生にとってはこの日が正月であるかも知れない。中学生になったばかりのほやほやが白線をいただいて歩いているのも、ことに目につく。雪のとけるのの早いのに驚かざるを得ない。本間君今日も帰る仕度をせずにおられる。

四月二日（日曜日）　　四月になったのにまたもや二寸ばかりの雪がつもった。然し、春の太陽にはまたたくまにとけてしまった。然し又一日中大きい牡丹雪が降っていることもあった。広瀬君、今夜、大雪山の方へ行かれるのでその仕度に多忙なり。夜、大塚君が来舎されたが本間君の留守のために特別室に移った広瀬君とだべる。

四月三日

四月四日

四月五日

四月六日（木曜日）　　藤田一君、新角をいただ堂々帰朝のトップを切る。その前途た

るや神々し き限りなり。

四月七日（金曜日） 六年間の長き歴史の一頁をエポックしつつ本間君、本日凱旋の途につかる。彼の前途の上に、又彼を育みし寄宿舍の上に祝福の大いならんことを……。この朝、天辰君、夜に若松新角の帰舎あり。

四月八日（土曜日） 永井君の帰舎あり。寄宿舍も次第にその形をもとにもどしつつあり。

四月九日（日曜日） 夜、秋葉君の帰舎あり。夜おそく広瀬君一週間の山旅行より元気一ぱい帰舎さる。その顔たるや海男に黒き哉である。

四月十日（月曜日） 朝、金森君帰舎さる。今日よりそろそろ授業あるよし。

町の新角が眼につく。馬糞風がもはや何処からか吹いて来る。

四月十一日（火曜日） 本日より金森久良文芸部委員として青年寄宿舍歴史を書き続ける事を宣言する次第なり。

曇天 陽光は時折窓辺を訪る。風強く馬フン風街頭にあり。

若松君はその美髪をホコりに辟易して帰り来る。

大島君、朝。佐々木君、夕刻帰舎す。

世は春なれば夜、舎に残るもの少し。 大島君の部屋にて同君の旅行談、花と開く。この度の見学旅行、対外関係極めて重大化せる折なれば軍部の緊張も尤もとウナズケル。同君の撮影にカカワル写真を手にして一同聞入る。

広瀬君、ニグロ然たる顔にてロッククライミングの冒険談を語る。その顔、終に山部の牛肉屋をして漁夫と間違しめりとか。

四月十二日（水曜日） 早朝、六花しきりに降りて春の街、突如白銀の世界となるも、間もなく消え去る。一君、本日よりいよいよ授業ある由。新角光輝を加ふ。

手稲の夕映うるはし。 広瀬君より図書寄贈ありたり。

四月十三日（木曜日） 晴。 米国、世界経済会議の笛を吹く。列強、果して真面目に踊るか？此がうまく行ったら実に世界の幸福。 予備商議帝国代表として石井菊次郎氏に白羽の矢たつ。

森蔭や、家の軒下には未だ残雪消えざるも春色日に日に濃し。

四月十四日（金曜日） 朝の急行にて桜林君いとも朗かに帰舎。静かなりし舎内、遽に喧し。 畑君より就職の正式の挨拶の葉書来る。 経済会議予備会商帝国代表、石井菊次郎氏、深井英五両氏に決定。

長城戦線異常大いにあり。十二日以来我軍総攻撃、関内の敵を壊滅す。 支那よ、広東も、広西も、中央も、静かに反省せよ。極東平和の鍵、聯盟にあるに非ず。自らの手中にあるを知れ。

四月十五日（土曜日） 春雨街頭にけむる。石井漠の舞踊を見に、大島、桜林、永井、秋葉、天辰の面々、夜、外出。帰舎後の批評によるとあまり香しからざりしとの事なり。蓋し、期待大なりし為なるべし。

ソドの対日通商条約廃棄声明、為替ダンピング税決定と呼応して豪州にも日貨排斥の 気分濃厚とあり。 又朝刊には満州国内の英領事館突如支那本土に引揚ぐるに決定せる 如しと。 英、日本聯盟脱退を好時期としていよいよ日本を圧迫すると共に自国産業の 擁護に出るか？ 我国の貿易の前途は暗澹たるも我に正義あり、不合理の横車、何時まで 続くか？

畑君の残されし書籍寄贈の手続きをとる。

近代劇集 17, 18、科学史概講、藤村感想集の四冊なり。 因みに前日広瀬君の寄贈されしものは、文化移動論、英文学の修業、唯物論を破る、の三冊なり。

四月十六日(日曜日) 曇る。 早朝雪を見たるも西風はげしく、夕方には風おさまり、空晴れ、麗く、今日は復活祭なれば午前及び夕食後外出される方多し。

大鐘君入舎決定せる由、宮部先生宛に電報にて願ひ来れる由。

永井君、大鐘君晩の急行で来札との電報に迎へに行く。天辰君随伴す。大鐘君、父君に伴はれ一先づ旅館に投ぜられしと。

佐々木君帰舎以来風邪気味にて臥し居たりしも本日より知己山田氏宅に起居して全快を期せられる事となれり。 夕刻、赴かる。(本日以降、佐々木君欠食)

四月十七日(月曜日) 曇。 手稲嵐はげし。この日予科一年医類大鐘晶オオカネアキラ 君、我が寄宿舍に入舎せられ吾等一同深くその歡を分つものである。静岡県浜松一中出身の由。頑丈、未たのもしき若者なり！

大岩君、朝の急行にて朗らかに帰舎せらる。直ちに学校に出かけ、夕方遅く帰る。その勤勉の状、推して知るべし。

四月十八日(火曜日) 風強く寒けれど、ローンの緑日増しに光輝を増すは喜ばしき限りなり。[削除の文 此の日入学式挙行せらる。楡の森に集ふ新人の上に幸あれ]

四月十九日(水曜日) 天候定めなき此の日は藻岩の彼方より湧き出でる暗雲低く流れ大地輝くかと思れば激しき雪となり又、瞬時にして止む。街上の馬フン風依然止まず。我々は此の日悲しき事を記せざるべからず。そは大岩君の退舎の一事なり。今朝(昨夜 その事を語られしと聞くも)突然一身上の都合により退舎せらる。四年の長きに亘る我々の友と此処に分る。寂寥身に覚ゆる者ただに筆者のみにあらんや。

宿は分れても友として変らざる友情を切望し同君の御健康を祈る次第なり。

午後六時半より特別室に於て新入生歓迎コンパ開催さる。唯一人の新人と大岩君を交へ、淋しけれど、又楽しき今宵なりき。

四月二十日(木曜日) 薄日さず彼方西部の山々青くかすみ、美しけれど風寒し。風の激しさを如何にせん。

財団法人青年寄宿舍認可の通知来る。

今日、大学入学式行はる。希望に胸を躍らせつつフレッシュマンは此の瞬間最も幸福なり。 あ、彼等の上に永遠に幸あれ。

米国愈々本格的に金本位制離脱、国際貿易戦に積極的に乗り出すか？ これで円価があ

がって学用品が安くなれば我々学生には好都合。

四月廿一日（金曜日） 夜、特別室にて決算を行ふ。三四両月を一度にまとめて行ひし為、食費比較的安く四十九銭にてすみたり。決算後寄宿舍当面の問題たる改築問題等について何ら具体化せるに非ざるも空想的に語り合ふ。

[欄外に 佐々木君肋膜との報を若松君もたらす]

四月廿二日（土曜日） 快晴。 鯨大漁。 軍用飛行機の墜落頻繁なり。

四月廿三日（日曜日） 折からの快晴を利用して外出する者多し。大島君一夕かかって六号へ移転。永井君風邪に加へて消化器を害しお粥を食ふ。大島君の退舎に佐々木君の肋膜、それに永井君と寄宿舍の空気マコトに陰気である。両君の一日も早く回復せられん事を。

四月廿四日（月曜日） 晴。 五条通の馬フン風激しく食堂より植物園の垣を全然見る事が出来ない程であった。 雨、夕方より、舎生一同の願とどけるにや、適度に降る。 康君、勇ましくあさの列車にて帰舎。 本日入学式（理学部）举行されたる由なり。未だ帰舎せざるは増井君のみ。

農学部農芸化学二年目大橋徳司君入舎さる（十二号）午後。オトナシイ方らしい。若松君、午後七号より大島君のあと三号に移る。

夕食後、二号にて茶る。大橋君、康君を迎へて賑やかなり。

英仏の巨頭華府に集まり経済会議いよいよ本舞台。

長城戦線、北口、界鎮口に於いて又々激戦あり。西、中村両部隊奮戦の報。

牧笛原稿募集第一回予告をなす。締切五月卅一日、発行六月一日の予定。 大思想全集第七十四、七十五回配本ありたり。

四月廿五日（火曜日） 何時のまにか落葉松も芽をふき初め、蛙の声も池の面に聞かれ、る頃となった。昨夜の雨で気持よし。

春季旅行計画、夕食後発表ありたり。概要次の如し。

行先 定山溪錦橋 大清閣 時日 四月廿九日より三十日昼頃まで

費用 二円二十銭、舎より五十銭補助 割引券必要との事

四月廿六日（水曜日） 終日小雨降り続き寒し。数日前より消していたストーブをあはてて焚く者ありと。 本日、学部一年目学生宣誓式中央 講堂にてありたる由。康君 いよいよ本格的大学生。

夕刻しばしやみ、黄色の夕陽弱く映えしも間もなく強くなる。夜、外出する者少し。

四月廿七日（木曜日） 靖国神社臨時大祭なれば学内休業、国旗を掲げて敬意を表す。夜来の雨は霰となり、雪となり変化極まりなし。午後に至りて晴る。 夜、何処に進出したるや、舎に止まる者僅少なり。

四月廿八日（金曜日） 薄曇。 本日ストーブを取りはずす。昨年十一月より今日に至るまで舎生を心持よく暮らさせて呉れた彼等だ。又、秋に頼みますよ！ストーブがないと少し寒いので火鉢を入れる。多少危険ではあるが火鉢の中に茶るも悪いものではない。

夜は明日の旅行の用意か？殆ど皆外出す。

帝国全権帰朝（廿七日）さる。聯盟の舞台にては我が主張を堂々のべて彼等の認識を新たにした彼も今、日本の土をふむ時吾人に向かっても警告せんとする幾多のものを有しているのであらう。

此の日、我舎生、特筆大書すべき壮挙を完成せり。即ち康君、午前の講義なきを利用し自転車を駆りて三角山麓に至り、直ちに強引に登り、同山の頂上を極め、二分間休みて下り、又、自転車で帰舎す。舎を出でてより舎に戻るまで此の所要時間恐るべし一時 間三十五分の短時間、蓋し我舎、夏山のトップ。

四月廿九日（土曜日） 晴。今日は天も天長の佳節を嘉してか絶好の天気。

中央講堂の拝賀式参列後、運動部桜林君は買出しに忙しく、かくて午後いよいよ本年度春季旅行は決行されたり。春霞に恵庭うすれ、舎生麗しき山々と、麗しき川、豊平川の春光をめでつつ午後二時三十五分豊平駅発の電車に乗ず。桜林君ポータブル蓄音器をたづさふ。一行、藤田一君を除き十一名なり。

滝の沢にて下車、桜林、若松両君は下車せずして、そのまま目的地錦橋に向ふ。

滝ノ沢より下車組広瀬副舎長始の一同ヨタリながら呑気にテクル。

一の沢の発電所付近にてセンベイを喰ひ、天辰干城君、藤田康君のハリガネムシの採集あり。二時間程を費やして目的地錦橋の太清閣につく。二階に落ち着き、風呂に入るもの、へボ将棋、トランプに興じ、お茶をのみ、夕食後ラジオ、レコードに興じ、一しきり遊び、八時頃より本格的遊技、ゼスチュア、銭抜き、etc。

夜の更くるを忘れ十一時頃入湯して一同寝につく。ゼスチュアの傑作秋葉君の大河内伝次郎、大鐘君の肥クミなるか。尚、此の外、康君の下に電話来たりしに俄然、大学の藤田さんなれど書記の藤田さんにて人違ひと判明。電話の内容は実にハカラザル余興なりしも（藤田氏の人格を尊重して）ここにのべず。

四月卅日（日曜日） 快晴。六時頃より一同めざめ、風呂の飛び込むもの、定山溪ナイヤガラ瀑布を見物するもの等々、朝食までを皆有効に使ふ。食後ノートラに一同興じ、それより衣服を改めて、定山溪、白井川等の風景を尋ね、数人のカメラ大いに活躍したり。鶯の人を懼れぬも可愛し。かくて一同天候にめぐまれ極めて朗らかに十二時十七分 錦橋発、無事帰舎。二時頃なれど用意のカレーライスの昼食に腹をみたす。

夜、疲労の為か、何時の間にか、皆寝てしまった様だ。

4 コマ目

5月1日、月曜。青年寄宿舍第4冊目の日誌を今日よりつける。来る6日土曜日、新入生歓迎月次会を開催する旨副舎長より発表あり。委員若松、藤田康、秋葉、天辰、金森（敬称略）の諸君なり。スキー今週中にかたつける様、掲示ありたり。

5月2日、火曜。終日風強し。夜に入りて雨少々。後更に風はげし。

5月3日、水曜。雨、春の雨終日降る。夜に入るも止まず。一入寒し。舎内極めて静か

にして外出する者少し。

東鉄問題に関して日満露の関係緊張す。対印貿易に何等の対策なきか？ 世界中の非常時、全人類の決死の努力が必要だ。支那も英国も米国も独逸もよく我が身を考えた時、破滅の直前にあるに気がつく筈だ。

5月4日、木曜 晴 昨日の雨緑を増す。落葉松もローンも輝く。芽ばゆる力を見る。経済会議代表団今日鹿児島立つ。善く使命を果さん事を。

5コマ目

夜、月次会の買出しに行く。

5月5日、金曜。予科、桜星会春季大会なれば授業、第一時限のみ。折からの快晴に勇しく町へ進出の模様。午後9時より特別室に於て、本日は我等男の子の節句なれば、かしわ餅や塩せんべい等にてコンパ開く。

ほこり猛威を振う。風も無遠慮で困ったものだ。夜半になって雨。

5月6日、土曜。朝雨に降らる。本科1年目本日午後教銃教練ある由。午後晴れなるも、工学部大講堂にて行われたりしと。

本日午後5時半より新入舎生歓迎月次会行われるに付、委員は晚餐の支度に多忙を極む。定刻より30分程遅れて始る。

宮部先生、鈴木、亀井、犬飼、時田、多勢、の諸先輩に舎生12名出席、たのしく夕食を供にす。委員自慢の洋食なればその味？如何なりしや。本日、畑君（本年工学部卒業）より筍の御寄贈あり。早速料理に利用。為に格段の美味となる。誠に感謝すべき次第なり。

デザートも愉快地。一先ず休憩。7時半より月次会に移る。

先ず康君の開会の挨拶あり。その所感に曰く「私がこの舎に入らなかつたら、今頃はどんなになっているか知れぬ」とのべ、次いで広瀬副舎長、「この舎は極めて自由である。只、禁酒禁煙の1ヶ条のみ守って下さい。又何か一つ身につける事」と新入生にのべ、大島君、「この舎はきたないけれど、その空気は実に美しく、我々の家庭として他の如何なる処より優る」と述べて、ついで3月未来の軍部関係見学振りより、吾人の他の方面に於て緊張すべき事をのべ、更に社会問題について、或いは資本主義、或いはテクノクラシーの新しい処を見よ、結局、精神生活が基調となる事を述べらる。桜林君「予科は人格を作る処、学部は学問する処」と云われているが、人格を作らない学問なんかあるかわからぬ。予科も学部も同じだ。只異なるは帽子のみ」と、藤田一君も、当寄宿舎の気分について一先ず讃辞を述べ、舎の良い伝統は極力支持しなければならぬがこの舎とて完全でないから欠点もある、その欠点に同化されぬ様、よりよく舎を改善しなければならぬとのべ、大鐘、大橋両君の答辞の演説あり。ともに愉快地に修養を怠らざる旨を述べらる。金森君、時間を有効に使う事、後から考えて見て進歩しなかつたと思わぬ努めよ」というに対し、天辰君、退化もネガティブの進歩、要するに一日ノハを自己に忠実に使え、と述べらる。月次会に入り平戸氏見えらる。後、今井氏見えらる。

次いで、先輩のお話に入り、平戸氏、舎の比類なき優れたる立場をのべ、多勢氏、今井氏が学同輩の茶目を語る。多勢氏苦笑。ついで多勢氏、優れたる青年寄宿舍の名誉は実に現在の学生生徒の優れたるに大いに依っている由に諸君の自重努力を希望せられ、今井氏、亀井氏、犬飼氏、鈴木氏立ちて各々所感をのべられ、最後に宮部舎長の御懇切なる新入舎生への御注意、舎の精神をのべられ、又財団法人が奇跡的の早さを以て認可せる内報ありたる由語る。

それより茶菓に移り、犬飼博士の満州旅行の内、敦化の危難について面白く語られ、極めて愉快地に10時半散会。先生・諸先輩を玄関に見送って後、食堂に再び集い、山根、増井の2同胞に寄書す。

7コマ目

此の間から「女中求む」のビラを5条通に面した勝手口横の楡の幹に貼って探していた処、昨日応募者あり。副舎長の首実験をへて、本日より働く事になった。石狩の人なる由。

5月7日、日曜 郊外に散歩せんと計画せるものありしも天候不良につき中止せる者多し。夜多く外出す。〔石狩川中流域の〕北村地方又出水の報あり。世はすべて多忙なり。

財団法人青年寄宿舍設立認可、文部大臣より宮部舎長の許に正式に来る。

5月8日、月曜 本日午前十時半より中央講堂に於て日米親善学生使節来札につき、文武会主催日米学生交歓会あり、盛会なりき。

5月9日、火曜 曇 夕刻少々雨を見る。概して平穩なる一日なりき。廣瀬君、京極線方面に土壤採集行かる。夜遅く帰舎。手稲三峰の雪も可なり消えた様だ。

5月10日、水曜 長城戦線、我軍の?東より引上ぐるわまだノ彼の挑戦激しき為、断固として?東の地に再び進出すと。北鎮部隊に期待せる〔ママ〕命令来り。六月上旬までに渡満の由、夕刊に見えたり。夜、寒さ身にしみ、火鉢を入れる者多し。

〔 ?東 = 〕

〔この春の戦況 - 編者注：この1933年2月21日日本軍、熱河総攻撃を開始。4月10日関東軍、長城線を越えて華北に侵入。同21日、日本軍、長城線に撤退を表明。5月6日、日本軍、再び長城線から南下〕

5月11日、木曜 さくらがさいた、円山の桜が。桜のみならずポプラもからまつも緑が目立つ様になった。ポリビヤ、パラグワイ宣戦布告すと。あゝ真の平和の来る事何と遅き。

今日は風はつめたかったが、太陽の暖かい、すっきり晴れた、そして妙に人の心を物思わせる日であった。

5月12日、金曜 随分寒い桜の満開も大分遅れるであろう。

「牧笛」原稿用紙、一人宛四枚づゝ分配す。夕食〔後〕天辰君、〔藤田〕一君等数名玄関横にてキャッチボールに興ず。

8コマ目

5月13日、土曜 快晴。名誉ある服部部隊の犠牲者、百有余柱の英霊は本日午前札幌

通過、旭川に向はれるが、内幌東健児、加藤中尉以下四十二名の遺骨は札幌に下車、月寒に向はれ、公会堂に於て厳肅に慰霊祭が行はれた。本学よりも代表者若干名の他、予科第三学年は、武装して路傍に整列し無言の凱旋に対して深甚の敬意を表したり。

此の日朝刊、皇軍既に?河を渉り直隸の野に出でんとする旨を報ず。戦闘激烈にして幾多の犠牲者を出せし模様なり。〔 ?河(らんが) = 〕

夜、日本基督教会にてレコードコンサートあり。出席する舎生多かりき。

5月14日、日曜 桜は三四分の開き。花曇。一度にあたゝかさ。電車満員。郊外へ進出する人々の一家団ランの美しい処を見せてゐるのが多い。秋葉君カメラもって円山へ行き人ごみに癡易して帰る。康君は好天気を利用して春期大掃除のトップを切る。午後、藤田両君、永井君藻岩へ登る。もう食うべき雪なかりし由。大鐘君も午後円山へ、大橋君大倉山へ。

今日午後一時より財団法人青年寄宿舍第一回評議会を特別室に開く。宮部先生とその他七人の御出席あり。

5月15日、月曜 此の頃の気持ちのよさはどうだ。全く人は借金あるを忘れる。

併し新聞紙上には北支に奮戦する勇士の状しきりに報ぜられ、狸済〔リットン?〕戦日英間にやうやく激烈、かと思へば、日満ソ三国間の外交委員会や東支鉄買収等の久之、多事を極む。今日は五・一五事件より正に一年、国に正義の士少なきを嘆く。

9コマ目

5月16日、火曜 快晴 気温急激に上昇。夏はや訪れ来れる観あり。白樺も輝かしい若葉をつけた。桜はほゞ満開にあらずや。コブシの花真白きも麗し。

西部隊密雲占領。北平も指呼の間にあり。〔 密雲 = 〕

5月17日、水曜 晴

閑院宮春仁王並びに妃殿下本日午後七時十分札幌駅に御着。本学よりも差支へなき限り駅前にて御奉迎申上げたり。米大統領世界平和保障軍縮促進提議す。

午後五・一五事件発表さる。全国民正しき思想を有する事最も肝要なり。誤れる愛国者つひに此国の不詳事〔ママ〕を惹起す。更に根本は思想を何らの圧迫なく批判せしむる事に非ざるか?

5月18日、木曜 晴 両殿下御視察の途次、本学に御成。種々学内を御視察遊された。学生生徒も厳肅に奉迎送申上げたり。

北支激戦つゞく、或いは其遽をもつくを辞せざるのか?

米国大統領、各元首にあてゝ軍縮促進す。

5月19日 本日と昨日文武会デー。八時半より公会堂にて新入会員歓迎会。正午より通常会員、夜は特別会員に映画会ありたり。

北鎮の勇士、本日札幌通過。幌東健児も十時四十分札幌駅発、 港〔ママ〕に向ふ。予科二年生永山將軍銅像前にて歓送す。其有志学生の見送り多かりき。風強きも夕より雨

5月20日、土曜 春雨に静かに明けた今朝 前日のホコリも清く着付きスガスガシ。

午前八時の列車にて閑院宮春仁王並びに妃殿下釧路に向はせらる。予てより運動部にて計画中の手稻登山、今日の天気にてついに中止す。

10コマ

春雨の中に郭公を聞く。郭公は春の鳥、その声、北国人にとりて限りなき懐しさを与う。午後、中央講堂にて犬飼、藤原（予科）両教授の講演あり。猶文武会の新入会員歓迎音楽会あり。舎生も大部分、聴きに行きたり。

皇軍の天津肉迫につれて、反蔣革命数ヶ所に起る。その文化の破壊せられざる事を祈る。これ又皇軍の本旨とする処。

5月21日、日曜。西郊の山々も春霞にかくれ、木々の緑日毎に濃し。名残の桜を見んとて円山におしかけた人出甚しき由。康君、新調の山靴をはきに円山方面に行く。

5月22日、月曜。土居君より近日来札とのうれしい葉書が来た。

天津の歩哨襲撃事件より駐屯軍緊張、服部部隊北平まで4里の点まで進出。

西側窓下の畑一面に縄をまく時期遅きに過ぎたるも是非とも咲かせたいものである。

5月23日、火曜。予科・実科・専門部2年生、実弾射撃実施。快晴。

暑さを感じず程の天気、桜ももう葉桜になった。滝川教授問題をめぐって京大対文部省の闘争、はげしさ日毎に増す。2号8号大掃除をなす。

本日夕食後決算をなす。食費1人当り56銭也。かなり高い。胸算用の狂ったもの少なからず。「牧笛」原稿締切近づく。

5月24日、水曜、快晴。広瀬君より石川千代松著「人間不滅」、田部重治著「山と溪谷」の2冊、御寄贈ありたり。

広瀬君大掃除。カッコーの声、いたる処にあり。

11コマ目

5月25日。今朝の天気がよい。4, 10, 12号各室大掃除。大橋君級友と真駒内へ。石井全権一行華府につく。善闘を祈る。皇軍、平津を完全に取巻く。

閑院の両宮、初夏の樺太へ。

5月26日、金曜、快晴。5号大掃除。滝川教授問題益々紛糾。完全に夏の気持になる。

5月27日、土曜、快晴。我等の先輩、土井恒喜君、予て函館に帰省中の処、本日朝の急行にて来札。舎にて9時過まで特別室にて茶り〔ママ〕、学校其他各方面を訪問された。

午後7時より折から土曜の夜間営業を利用して、三越食堂スペシャル・ルームにて土井先輩を中心として青年寄宿舍座談会を開く。会するもの、土井君、初め舎生全部（増井君をのぞく）大塚、大岩、金森（兄）の諸君にて、土井君の話尽きず。

次きノと9時の閉店間際まで語る。専門が油の事とて、国家的見地よりみて燃料問題に付いて特に熱心に語られた。御従事のオイルシェールの事、上海戦のみにて既に欠乏せるベンジンの事、燃料問題のみならず我国家の前途を憂いて必死の努力を続けられつゝある中堅軍部将校、等について、又更に進んで、近い満州に行ってみたのみにても、

母国と言う事について痛切に感じられた事。内地、殊に北海道はこれらに対して非常に無関心である。齒がゆい程であると時には政治問題にもふれかゝる程の熱を以て、多少声もふるえる程に熱弁を振われた。或意味に於て単調な我舎の生活の上に、大いに刺激を与えられたと感ずるもの豈広瀬副舎長のみならざるなり。散会后、中島公園まで逍遙する。

樺太大山火、川上炭鉱大爆発とあり。貴重なる人命及び財産がかくして灰燼に帰す事、誠に惜き次第なり。6、7号大掃除。

12 コマ目

本日は海軍記念日なり。国旗掲げて祝意を表す。土井君特別室に宿る。

5月28日、日曜。薄曇。遠足には絶好の天気である。康君、永井君、新調の山靴にて手稲に行く。天辰君今朝より3日間島松の演習に行く。

増井君午後元気にて帰舎す。社交術、休み中に一段の進歩あり。

土井君帰る。夜の急行にて。全員見送る。金5円也を寄附されたり。

5月29日、月曜、曇。増井君の帰舎にて寄宿舎内の空気大いに活気づく。

西側窓下のチューリップ見事に咲く。日支停戦交渉説。我軍は実際、天津を囲みて動かず。

その誅意を示している。秋葉君、11号の大掃除。

5月30日、火曜、晴。掃除も殆ど済み、ガラスも明くなって愉快である。大掃除パスする。馬王璋、北支乗取か？旗上ぐ。午後、天辰君、演習にへッパッ帰る。

元舎生、佐々木倫太郎君、大学付属病院に今日入院せる由。

5月31日、水曜、晴。本日午前11時30分、日支停戦せる旨関東軍より発表あり。

麗わしき北支の天地再び生のよろこびに満ち／＼している事であろう。

本日「牧笛」原稿締切、量は少きも皆の極めて優秀なるもの続々来り。委員の喜びに堪えざる事。土井君より函館にて原稿郵送し来るが巻頭に飾りて一般の意を第40号「牧笛」に添えるもの。

6月1日、木曜、曇。寒い／＼。時々雨も伴う。午前10時半より中央講堂に於て本学学生生徒に対して東大教授文学博士、宇井伯寿氏の「東洋思想の中心」なる題にて特別講義ありたり。翌日も「其の二」を講ぜらるゝ由。

6月2日、金曜、雨。朝久し振りにて少し降る。雨に煙るも又よし。

宇井博士の講義中央講堂にてありたり。

13 コマ目

6月3日、土曜、雨。慈雨なり、適雨なり。樺太山火やゝ下火となる。

京大の対文部省抗争いよ／＼自然科学の諸学部学生も合流す。大学の使命を中心問題として、対岸の火災視し得ず。

6月4日、日曜。朝雲低くして雨を思わせたるも午後美しく晴れる。秋葉君、幌見へ。

桜林、永井、藤田康の3君、三角山へ。

北大トラックにて第3回札幌市民陸上競技大会あり。グラウンドにては東北大対北大の野球

戦あり。又プール開きもあり。非常な雑踏を呈す。野球は本学大勝。

6月5日、月曜、快晴。閑院若宮兩殿下、本日退道遊さる。樺太山火下火。東京には土井君を中心に寺岡、平川、本間、畑の諸君の痛快なる寄せ書きが来た。

6月6日、火曜。風猛烈にして路上の砂塵に辟々す。俄然夜に入りて雨。

6月7日、水曜、雨。夕刻に至りて止む。「牧笛」第4号いよいよ発行せり。今夏本学より千島2班の探検隊派遣の由。政府米国に平和促進提案に答う。

6月8日、木曜、晴。本学見学旅行団最近とみに増してきた。突如号外あり。浜松飛行第7連隊火薬庫大爆発を報ず。損害甚大との事。

6月9日、金曜、晴。雷が鳴り夕立が来た。一雨過ぎた後の緑の美しさ。修学旅行者の目を楽しむもむべなり。鈴蘭の香る頃となった。机上の愛らしき姿、よし。

6月10日、土曜、晴。午後予科対小樽高商ラグビー戦小樽にて行わる。30-0にて予科軍大勝す。

数日前印度の関税引上げに対して当業者もその報復の意味にて印度綿不買を決議す。永田君外泊。

14コマ目

6月11日、好天気。若松、藤田康の両君、恵庭へ鈴蘭狩りに行く。初夏の郊外散策は実に楽しい。両君の他、握り飯をもってぶら／＼円山方面へ出かける者あり。午後予科対高商の野球、剣道、柔道の試合あり。野球は我軍陣営振わずとの予想なりしも若人の意気の前には如何なるものも屈し、8A-6にて大勝す。応接間(1号)の壁破損中の処、本日修理なる。各室の壁も処々塗りて気持よくなる。

6月12日、月曜。大鐘君本日より4日間月寒に於て兵営宿泊、野外演習あり。教練服に身をかためスキー靴をはいて物々しく出掛けたり。午後7時より公会堂にて札幌シンフォニー・オーケストラの第9回管弦楽演奏会あり。舎生も大部分聞きに行く。

いよ／＼本日ロンドンにて世界経済会議開かる。英帝のH?放送あり。

来る17日土曜日午後7時より月次会を行う旨発表あり。役員、大橋、永井、藤田一、増井の諸君なり。

6月13日、火曜、晴。桜林君27日頃よりドッサリと試験があるので夜も外出する事殆んどなく猛勉強中。大橋君も近日中に試験一科目ある由にて頑張る。それにつけても増井君のブランク埋め猛勉強なり。16日頃より試験が始まるというから頑張るのも尤もである。

6月14日、水曜、曇。時々雨の粒が落ちてくる程。今日は札幌神社宵宮祭。街はきれいに装飾された。祭りは世界中処を問わず時を問わず楽しきもの。

15コマ目

共産党首脳者たる佐野鍋山転向をなす。若し良心に於てなしたのなら彼等に対して元の同志の懐くであらうと想像される猛〔?書取り者〕々なる批評に対して何らの躊躇もなく

彼等2人の信ぜる処を断行す、その意気旺んなるかな。男子はその男らしさを以て尊しとす。

彼等先に自己の信ずる処に従いて日本共産党を組織し、実行運動に入らんとせり。

今又その非を悟り自己の所信に基き転向す。その真の男子の面目愛すべし。

6月15日、木曜、快晴。札幌神社大祭に最適の好天気、塵埃もあまり立たず。

初夏の祭、青葉の祭。まつりは人の心を楽しませる事限なし。南1条の頓宮に御仮泊あらせられる。大鐘君4日間の兵営宿泊並に野外演習に日に焼けたるも甚だ元気にて帰舎す。

6月16日、金曜、晴。札幌神社大祭第2日。又よき好天気なるかな。

そろ／＼試験近づき舎生の外出少くなる。

文部省と京大総長の間に意見の一致あり。総長と教授達の間うまく了解の行われん事を祈る。”大学の自由”の問題も発生当時に於ける粗雑なる意見もようやくなくなる。極めて真剣なる意見の表われ来る。喜ぶべき事なり。

6月17日、土曜、曇。実専2,3年野外演習が今日と明日両日行われるので、秋葉君勇しく出掛く。増井君お腹をこわし1日寝ている。

今日は月次会が行われた。晚餐は増井君臥し、永井君午後も実験にて手不足なりしも天辰君の臨時コックにて立派に出来上る。実に美味しい料理であった。

月次会は定刻7時よりかなり後れて開催。宮部先生、亀井、山口両先輩が見えられた。人数が少ないせいか皆沈黙を守り過た観あり。

16コマ目

開会の辞につゞいて広瀬副舎長の挨拶あり。此学期は運動をなす機会の少かった事を遺憾に思うと述べられ、その後大島、大鐘、藤田、金蔵の諸君感想をのぶ。ついで山口氏は同氏在舎当時の元気旺盛なる舎生を語り、球の見えなくなるまでテニス、それから角力を取り、又卓球も盛んであった。兎に角人の迷惑にならぬ限りに於いて何でもやれと語られた。その諧謔の中に幾多の痛切な教訓？を示された。自分に出来る事をする事、出来ないくせに出来る振をしない方がよいと結んで降壇。次に亀井氏のやゝ静に我々を考えさせる様な言葉を語られ、夏休みには今の研究を出来るだけ早く完成したいとのべられた。

次に宮部先生は煙草の人体に及ぼす害について、往時の経験を語られた。吾舎の禁酒禁煙の主張は実に先生のこの体験によるものであるとのべられた。それから夏休の注意として両親の許へ帰省する事は誠によい事であるから、短時日でよいから帰る事。夏休を何か有益な書籍を1冊でよいから読破する事、つまらぬ小説や雑誌は時間を空費するものである。旅をするならこれは或る方面に限られた事ではあるが採集をする事、これは誠に興味深いものである。又注意して誘惑に陥らぬ様にと御注意下さった。それより茶菓に移り、散会した。先生も先輩も極めて愉快にお話下さった事は我々の深く感謝する処である。

それより来学期各部委員選挙を行う。その結果次の如し。

食事部 - 天辰君、藤田康君、会計部 - 藤田一君、運動部、大橋君、文芸部

17コマ目

大島君、衛生部、大鐘君。以上。

6月18日、日曜、曇。午後やゝ晴れる。広瀬、桜林、永井、藤田康の諸君新緑の郊外を味わいに行く。増井君元気づく。植物園も人でいっぱい。塵埃はげしくて雨を恋う。

アカシヤ咲く。秋葉君帰舎す。

6月19日、月曜。午後から怪しい空模様であったが、夕方に至ってかなり本格的に降る。アカシヤも咲き、苺も出た。今年は随分早いなあ。

十有六年の日月と巨額の建設費を要せし丹那トンネルの水抜坑。愈々本日開通す。

6月20日、火曜、晴。昨夜の雨で緑すが／＼し。

世界経済会議を片手に関税引き上げをもなす英国あり。3分の1の軍縮を提案しながら米
国、大軍拡を決議す。あゝ世は多事なる哉。

藤田康君午後8時44分の汽車にて厚岸臨海実験所に行く。約2週間の予定。若松君既に講義なく、康君と旅へ。ようやく夏休近づくの観あり。水産マン、予科ボーイは試験が近づく。

6月21日、水曜、晴。共産党ゾク／＼検挙さる。京大生、滝川教授問題ならんかさわぐ。この頃の舎生大いに元気あり。夕食後暗くなるまでテニスコートあとにてキャッチボールに夢中。若松、天辰、増井、藤田一の諸君最たるものなり。今北方短の極、夜8時まで明るい。

6月22日、木曜、晴。夕食後6月分決算をなす。1日食費52銭也。

全英経済ブロック、日本に対して総攻撃の観あり。

18コマ目

6月23日、金曜、曇。大橋君試験すむ。大思想全集76巻ディルタイ精神諸科学序説(上)配本されたり。

6月24日、土曜、曇、降りては止む。試験前の土曜を有効に使わんとする積もりか午後外出するもの多し。春雨に浸るゝアカシヤの下にその香を求むるもよし。郭公の声いたく老いたり。

6月25日、日曜、曇。むし暑し、いよ／＼夏が来た。午前中雨午後に止む。旱魃の惧れもこれでようやく消えたか。

経済会議の前途はな／＼悲観さる。

6月26日、月曜、曇。此の頃の舎生実に静穩を極む。夜に入りて雨。

雨の中に静かに学ぶ。

6月27日、火曜、雨降り続く。夜ベーターベン第九の放送を聞きに街へ出かけたもの5人。舎内静かなり。

満州国とソビエト連邦の間に北満鉄道買収の会商行わる。産業日本の死命を制する関税障壁！！日満経済ブロックにても世界と拮抗する事は出来ぬ。我等が経済会議とシムラ

全権の成功を期待する所以こゝにあり。

6月28日、水曜、曇。日陰、時に照る。水産いよ／＼明後日より試験。

副舎長より本年度後半期の舎生組合せ発表ありたり。当時世間をシンガイさせた白色テロ井上日召等の公判開かる。

6月29日、木曜、曇。李王殿下本日御着札遊ばされたり。

夕食後室の抽選を行う。次の如し。1号若松君。2号秋葉君。3号山根君。4号増井君。5号金蔵、大鐘君、6号桜林。7号大橋。8号藤田一君。9号藤田康君。10号天辰君。11号大島君。12号永井君。

19コマ目 2007.10.3

6月30日、金曜、曇。水産本日より試験あり。兩人の頑張り物凄し。大橋君朝の汽車で見学旅行に立つ。引続いて帰省される由。

李王殿下学内の視察あらせらる。副舎長より時節柄衛生に注意する様掲示ありたり。

7月1日、土曜、雨。今日より競馬。例によりてホコりに苦しめらるゝものと覚悟していた処、朝より絶え間なく降り午後に至りて止む。此の模様であると今年は競馬に苦しめらるゝ事なきか。かなり蒸し暑し。朝鮮地方出水。

空前の低利時代出現す。これによりて一般経済が好転してくれるとよいが。

7月2日、日曜。予科明日から試験。本科の人達も大部分講義がすんだので静かである。細雨煙り、蒸し暑し。京大問題で文相の決意断固として教授の入れ替えをなすか。総長既に辞任。

7月3日、月曜。実に気持ちよく晴れた。朝より暑さを思わせていたが果30.5度まで昇る。競馬場行き街の横暴者の為にそろ／＼砂塵が舞上り出した。

米国が為替安定参加を拒絶する。経済会議はどこへ。

7月4日、火曜。若松君早朝帰省す。服部部隊3年兵凱旋す。その労に深甚の感謝を表す。機械学会講演会、工学部にて行る。水産、試験終わる。

7月5日、水曜、晴。桜林、永井両君、支笏に出掛ける。2、3日の予定で工科マン、各工場、築港等見学に忙し。水産マン鎌倉先生死去につき御通夜に行く。東京にて土井君等の記念撮影郵送し来る。皆の背広適当に似合っている。

7月6日、木曜、晴。朝、康君ひょっこり厚岸より帰って来た。日に焼けた事

20コマ目 2007.10.10

藤田一君、朝、見学旅行の旅に発つ。引き続き帰省される筈。夜秋葉君、見学旅行の旅に。増井君は少し遅れる由。

7月7日、金曜、晴。夜のうちは、、が昼は適当に暑い。大島正幸君、朝の急行にて帰省。天辰、大鐘両君試験終る。夕方、桜林、永井両君陽に焼けて恵庭・樽前を征して帰る。又競馬。

7月8日、土曜、晴。朝の急行にて藤田康、増井、大鐘の3名帰る。金森試験済む。

今日は離別コンパの日なり。舎に留まるもの広瀬、桜林、永井、天辰、金森の5名なり。

午後6時頃より出かけ、4丁目亀屋にて淋しいけれど楽しい離別の宴を開く。5人で。天辰君のなやみ、ようやく解決の域に達したか。兎に角慶賀すべき事なり。

7月9日。今日は日曜だが別にそんな感じもしない。むし暑い日であった。夜8時35分の根室行きで金森君帰省さる。涼しき地に帰省されるが何となくうらやましい。

夜の町は断然夏らしくなった。残ったもののうち3人、特別室でレコードをきゝながら12時にいたる。フクロウの淋しき鳴き声が植物園から盛んにきこえて来て吾々を淋しくした。

21コマ目

7月10日。競馬が終わって5条線もほこりが立たなくて気持ちよし。

朝の準急で永井君帰省。一先ず小樽に行かれ、明日広瀬君の急行と落ち合う予定なり。広瀬君最後の登校をなす。夜のライスカレーも桜林・広瀬の2人、少人数ながら共に食す。

7月11日。朝9時の急行で広瀬君が発った。桜林君も頑張って起きて見送りに行く。見送りの感傷。誰しも知ってる。俺も金が来ないかナアと思う。天辰君は忙しくて朝出掛けたきりだ。此の日、一日とても長く感じた。晩は霧が下りてた。

7月12日。桜林君、午前中は感心に机に向ってる。何をやってるのか知らないけれど。天辰君は非常に真面目な問題にぶつかってるらしい。若き日よ、光栄ある苦しみよ、祝福あれ！！ 次に来るものはかならず感謝の日であるにちがいない。

2君とも舎で飯を食うこと少なし。

7月13日。今日も曇り勝ちだ。何だって雨よ、降らないのだ。

午前中大塚君が訪ねてきた。3人で3時過ぎまで真面目な問題を話し、論じ合う。オバさんが苺をオゴツてくれる。休みならではだ。話し合った後は皆、愉快そうだった。若さと真面目さ - すべては此の上に建てられるべきなのだ。

何時頃からか天辰君は荷造りを始めた。彼は親父が来てる。明日一緒に帰ると言っていた。

天辰君は夜遅くなってから出掛けていった。親父の所へか？今夜も桜林君一人だ。舎はとても静かだ。蛙の音が盛にきこえる。時々、凄いな、淋しいようなフクロウの啼くのが聞こえる。何とも言えない。桜林君金が来たので喜んでる。

かくして休みの一日は暮れて行く。静かに、淋しく。時計の音のみ高くきこえる。アマリ静かなのでポカンとしてしまふ位である。

7月14日。今日は暑い。一寸外へ出ると背中がヂリ／＼する。だが札幌の良さ、樹陰の涼しさよ。

天辰君は昨夜はとうとう帰らなかった。

午後にはたつて遂に静かな雨がやってきた。地面はヂットリとして来る。けだし心持の好い湿り気である。

天辰君は午後8時の汽車で帰省、小樽で親父と落ち合うとのこと。

桜林君は銀行からゲルトを取って来て如何にも落着かないらしい。ブルの落着はもったもとのことである。

蓄音機の具合は油を差しても悪い。どうも好くない。

大塚君と桜林君は天辰君を送っていった。4人に送られて彼はハッピーだった。

札幌も夏休みの為、人種が悪くなった様だ。丁度入れ替わったのだ。

桜林、大塚君と舎の費用のあまりに高くなりすぎることを大いに話し合う。此の夏残った経験から大いに知る所があった。「夏の体のノート」を若松不二夫さんに送った。4銭だった。

7月15日、小っちゃな可愛い女ノ子が桜の木に登ろうとて頑張ってる。柳の木に登ろうとした蛙の様だ。スルト僕が小野の道風か。此は昼食後の舎の窓よりの風景なり。

とう／＼登れなかった。僕が見てるのに気がついて、舌を出して笑ってる。

「京大法科に対するには既定方針でヒタ押し」だとさ。モグラモチの如き英雄、鳩山一郎よ。何が既定方針だい？ 「又も制服の非処女の恋愛遊戯」ダッテ。歪められたる無邪気さよ。子供なるが故に恐ろしい。

夕食後散歩をする。夏の宵とて人が沢山出て居る。種の悪いのは争えない。レコードを聞いて帰ってくる。最近はずっかり一人で活(くら)すことに馴れてしまって、何とも感じない。但し何もやれない時間が出来てくる。こんな時は散歩に限る。散歩後は室一人で茶を飲む。実に静かな落ち着いたティータイムだ。

便所へは石油乳剤をまいた。彼等はまもなく滅亡するだろう。

電気を消して寢床に入ってからレコードをかける。死と乙女、ベートーヴェンのガイゲ・コンチェルト...きいてる内にそれらが次第に巡って、より柔かく、より夢想的に、より心好くなって行く。何て素晴らしい世界だろう!!!

こんなロマンチックな眠りが又とあろうか!!

心は喜びに感謝で一杯になってしまうのだ。

25コマ目

7月16日(日)。今日は日曜日。植物園横で市電を降りる人が多い。アブラゼミが鳴く。けして焼け付く様な気はしない。何かなつかしい物を湧き起こしてくれる。

花壇の雑草が随分と伸びた。実に壯観だ。圧倒される様な気がする。

今晚は一步も外へ出ず、落ち着いて居た。又一人でお茶を飲む。広瀬君のカキモチが遂に無くなった。どうせ明日一日だから丁度好い。桜林君は18日の朝でかえる様に決心したらしい。彼の決心なら怪しいものだけど今日、寝台券も買ってしまった様だから大丈夫だろう。

一人の生活も面白いが仕事はあまり出来るものではない。休のせいかも知れないが。

時計の音を聞きながら家へかえった皆は今頃何をしてるだろうなんて考える。未だ7月半ばだというのに僕一人とは、皆ばかりにアワテ、行ったものだ。僕等が居なくなって空巢ネライ等が入ってなければ好いけど。

7月17日。桜林君、午前中頑張って荷造りをして駅に出しに行く。郡司の大きなリヤカーを引張ってるカッコウはよく似合う。

26 コマ目

今日も曇天。札幌の夏はシノギ易い。ラヂオ聴取を桜林君独断で廃止す。けだし横暴と言うべきか？！

夕食後桜林君は松竹座に「春の驟雨」川畑文子写〔？読取り者〕の演出を見に行く。今日一日なりとて一寸感傷的になってる様だ。

いよいよ明日からは誰も居なくなる。舎は皆寝てしまってシーンとする眠りが 気にもなれない。舎よ留守中も健全であれ。何だか建物が生きてる様な気がする。

さらば日記よ。明日からは何日間かブランクとなるであろう。2 ヶ月の間個々に分かれて記されるのだ。

7月18日、桜林君朝の汽車で帰省さる。寂寥。

此の間、舎生及び舎生日記ブランク〔ママ〕

8月24日(木) 朝の汽車で広瀬君帰舎す。帰舎のトップは勿論なり。室の中がいやに黴臭いのは憂鬱の種だ。早速掃除をして室を片づける筈だが、気が向かなくてかたづけの方は明日にした。

27 コマ目

8月25日(金) 広瀬君、今日も一人である。7月の桜林君の心境大いに察せられる。一日陰気な頭のいたくなる様な天気だ。三越にライカ写真の展覧会があったのでのぞきに行く。

寄宿舎の7, 8月の地代34円也を道銀におさめに行っておいた。

宮部舎長は植物採集旅行に釧路方面に行かれたそうである。

8月26日(土) 秋の感じの濃厚にする天気である。未だ舎に帰るものなし。広瀬君友達の所で夕食す。

28 コマ目

8月27日(日) 秋の空と何とかは変りやすいというが、全く傘をもってでもして行かないことにや何時雨が降り出すか知れない。

五・一五事件はなか／＼にうるさいものらしい。「正義」ということが歪められて考えていると思う。大観艦式の模様が朝刊を通じて見られた。

8月28日(月) 今日はずいに降った。夕方までは降ったり止んだりだったが、それからはドン／＼と降っていた。又何処かで大水が出なければいいがなーと思う。これじゃ室がます／＼黴くさくなるのも無理無しだ。天辰君が朝遊びに来た。

8月29日(火)

昨日に引きかえカラリとした天気であった。気合までよくなる。風はつめたくって秋らしい感じが猛烈にする。綿をちぎった様な雲がとんでいる。

8月30日(水)

昨日はあんなに天気が良かったのに夜になるとちゃんと時雨が一降りやって来た。道は

常にしめっていて気分よし。朝一号をかたづけた。大島君が明朝帰って来るといのでその方の室も一寸掃除しておいた。夕方には彼氏の荷物がとどいていた。もし明日から二人となるんだったら広瀬君は丁度一週間一人で居たことになる。

29コマ目

8月31日(木)

朝7時43分着の急行で大島君元気で帰舎される。これで愈々二人となる。永い永いと思っていた暑中休暇も今日で終りになる。予科は明日より学部は11日よりだ。夜の急行で此また元気で大鐘君予科生を代表してーといっても今では彼一人になってしまったが一帰舎さる。海水浴でやいたその面は黒く光っていた。

9月1日(金)

割合にはっきりしない天気だった。大鐘君、広瀬君登校する。午後からは雨までが降り出した。今日は思い起こす関東大震災十周年の記念日だ。当時を思い黙禱をさゝぐ。夜大島君はしんみりと製図の計算を、広瀬君は本間俊平先生の演説を聞きに行った。大鐘君は何処へ行ったやら杳として影見えずなり。

9月2日(土) 晴、22度

昭和8年度第二学期の文芸部委員として本日よりこの日誌を綴る。〔大鐘氏か? tokoro〕昨日の蒸暑さに較べ今日は何んと凌ぎよき柔和な日和である事だろう。来る秋毎に思う事だ。寄せて来り去る一日一日が常にかくある様にと願う其の心境こそ秋を強調するシンボルでなく何んであろう。今や大通りはサルビヤにパンヂーに深紅こもごも咲きに乱れ其の後ろに三段、手稻の連山を控えたる其の情緒や正に北欧に見る風情の如きである。引続き舎に三人の起居がおこなわれるとのほかなき思いを又三人同様に持った。大鐘君、広瀬君共に登校、広瀬君は既に論文の為めの実験に連日の努力である。大島君は部屋にて何とかに心を傾けて居るが、今日も未だシマリがつかぬらしくある。小母さんが我等三人の為に鍋に一杯ライスカレーをつくった。桜林君ではないが、この分だと明々日位まで食べそうに見える。少人数である事はとかく小母さんにも極めて不得手らしくある。

丸井に北海道産業博覧会、三越に定山溪・小樽間バス沿線風景の写真展有り。彼のヨークシャ、ホルスタイン、サラブレッドの模型は大島君記憶するところ既に丸井にて3回目との事なり。真駒内の宣伝術たるや特に100パーセントなり。

9月3日(日)晴。22度C

快晴に乗じて晴着姿のあれこれが窓より目に付く。大鐘君この時とばかり蒲団乾しにとりかゝる。

小母さんの鳩が十何匹に増えて楡樹の間をたくみに輪を画いて飛び回る。意外にもそれと気をひかれるもの舎内になし。

そろ／＼一君、長井君の帰札の臭いがする。黴臭い八畳間のあの雰囲気は誰しも心をむけ

る憂鬱なものに違いないと一同各部屋の窓を開放して通風並びに掃除を行う。
午後広瀬君、大島君、共に宮部先生の御宅を訪問。財団法人のとゞけに関して先生の印を
いただくのが目的で其の他に最近話題となれる農学部館脇博士の命名に発する宮部ラ
イン及び今朝の新聞に報じられたる河野博士の松村ライン等に関して種々な内面的な
逸話を御伺いして退去す。

長井君帰るか大島君駅に行けど姿を見ずそのまま何処に行きしかなか／＼帰り来らず。
広瀬君も多分教会の集りであろうが、帰りが遅い。大鐘君、初経験の札幌の初秋の夜の
感じを味いつゝ一人部屋にたてこもる。

部屋に蚊公が多い。この数年来見ない珍現象と云う可く皆々苦しめられて悲鳴を上げて居
る。

9月4日、曇後雨(月) 20度C

こゝに記する温度は本委員の就寝せんとする時の部屋内温度で無論摂氏である。
小母さんの配慮でこの2、3日の献立が成立して行く。却って小母さんの自由な一面が伺
えて、それに台所も仕事がかどるのではないかと思われる気がする。我々の千篇一律
の献立で攻めるのも少しく考え物ではなからうか？ それにしても食事部の今学期委
員は天辰君退舎せるため改選する必要があるが果して誰がなるか。小人数の事もあ
るから誰か重任する事はやむを得ないだろう。

しと／＼と雨が降りしきる。雨に縁のある誰某が帰るものならんと駅に至れば之は得たり。
永井、藤田の両君、互に共謀して上野より立ち来る。思い直せば丁度雨が降り始めたの
が両君其の一步を北海道に踏み込みたる時間なり。

飯を食うとて荷を駅前のニシムラさんに預けてドウコシに出かけて帰舎。
一足後れて若松君帰る。一日の釣懸よりの船路、汽車路で神経過敏性は遂に食後迄影響し
てそのショウモウぶりは見るも悲惨である。

一しきり休みの懐旧談に花が咲き、やっと寄宿舍らしくなる。

食堂の電灯具合悪く、ために根本のスイッチのフューズを飛ばし大島君一奮闘。

社会的に新聞紙上には平和そうな不気味なニュースがとびちる。

9月5日(火)雨

引続き終日トタン屋根に雨だれの音がして居る。くるみが熟して来たのか時々思い出した
様に木から屋根に落つきあたる音がする。

昨日帰った連中は終日レコードをかゝえ込んで塩せんべいにスルメイカをかぢって居る所、
さすが中堅連だけあって大したものである。夜の飯は小母さんの見積りが悪かったのか
何しろオハカリをするこの豪勢さである。

若松君は私用で一日出たり入ったり。桜林君の荷到着。廃物利用のカラーの荷札が目を引き
く。

夜の急行で福島より大橋君飄然と帰り来る。今日は馬鹿に寒い(?)。冬のシャツを引きづ
り出す様な始末であるのに大橋君とんだ災難である。津軽の海峡も荒れたそうで青森以

来ブルノ、だったそうである。

明日よりの学部の美瑛に於ける演習に舎より若松、藤田、永井の3君が行くそうで、雨について夜はその出掛け支度で舎におらず。

有名なお伽話のおぢさん、巖谷小波氏逝くとの報有り。明治文壇の著名人がこれで殆ど絶えてしまったのではないかと思われる。小波氏について有名なエピソードは例の金色夜叉のモデル問題であった。

大橋君を中心に特別室で茶を飲む。

9月6日(水) 細雨、18

早朝一番の列車で若松、藤田、永井の3君この天候を冒して美瑛に向う。賑かと思いしも一時、舎は再び寂寥を繰返す。

二百十日も無事にすमितる様子なれど豊作と予期される農家にとりては二百二十日問題であらう。この2、3日来的様子ではどうも雲行きが危しい。

細雨にとりこまれ恐ろしく寒い一日である。冬物をひっぱりだすとも敢て恥に非ず。夜はストーブ有ればと思う程なり。

薄い日影を見たかと思えばサット一雨来りて風吹き去る。そろノ、秋らしくなって来た。

例の赤トンボはまだかな。

34コマ目

夜は大鐘君の優待物で南州論をやる。結局何処に南州の偉大さがあるのか世評だけを見回して吾等は南州個人についての歴史的認識を忘却して居た事に気がつき大笑する。

日本歴史は日一日と我等の実生活から遠ざかって行くのではあるまいか。恥ずべし。

9月7日(木) 晴 18

久し振りにて朗なる日をむかえ赤トンボの姿を見る。

夜予測通り桜林君かえる。相変らず元気なり。

十二号で相寄って茶を飲む。

9月8日 晴 20度

朝の新聞紙上、例のアンナ、ローザンヌ号のインチキ資金募集賑いの問題賑かなり。もとノ、有るか無きか得体の知れぬままに寄金をする利欲につられる思慮の足らぬ一般世人も世人だ。

予科ボーイ一人の大鐘君単独の通学に同情を寄せる者多し。現在の舎内は角帽でかたまつて、謂わば老人共の世帯である。より多くの予科ボーイを迎えて舎内に若人の意気を勃興せしむる事は絶対的必要である。

天辰君来訪。サボッテ帰ってもそれだけの効果がないと札幌住人の悲哀を語る。

35コマ目

気温幾分上昇。まだノ、変調にあると云うを得ず。初秋の候にしてはもっと温かる可きである。増井君の荷来る。

夜十時頃より一時間、食堂にて期せずして集りたるものどもレコードの事、秋の旅行の事

等につき語り合う。

近時、学校外の寄宿舎に盗難多しと聞く。これにつき副舎長の注意掲示有り。既に秋田寮、仙台寮、信州〔進修のこと - 読取り者注〕学舎にありとの事。各人注意す可き事は勿論の事、災難を未然に防ぐ様努力す可きなり。

9月9日、土、23、晴

朝の急行にて健康全く快せる山根君、帰舎す。三号室に約一年ぶりに其の主を迎えたわけで我等これ以上の喜びはない。

一年前を懐古するに全く夢の様である。あの熱魔との苦闘それに引き続く病院生活の客観性を直視して摂理の神の不可思議なる御業の連続性がはたと感ぜらる。

我々は郷里に保養され自重されて居た同君の帰札の日をこゝに目出度迎えた事に対し後日前途への奮闘を大いに期待すべく盛大なる祝をはる可きである。

気温順となる。夕刻演習地より疲れに疲れて若松、藤田、永井の3君帰る。若松、ロング氏は風邪気味とて他の2君以上に元気無し。蓋し十勝連峰の雄大自然を背景とせる8日の砲兵実弾射撃には等しく警戒の目、口で物語って居た。

36コマ目

永井君はさすがにライスカレーに気を引かれたのか兵廠のライスカレー物語が其三日間の収穫の全部で有るかの風であった。

彼の遠大なる計画大雪登山は予想通不断行であったとは目出度し／＼。

夜の気分を味い追て外出漸く多し。

9月10日 日 20度

秋のリーグ戦昨日より開始され、街頭所々ラヂオに耳をよせるもの多し。大通の花園は益美観を呈し、朝鮮朝顔の薄紅色か絶好の階調味を周囲に与えて居る。

折からの快晴に散歩姿の多きを数う。舎の胡麻の実も熟しきったのか盛んにトタン屋根につき当たって池に落ち込む。それを拾いに来る附近の子供が三三、五々終日交る可くやって来る。赤トンボが電線に列をなして来て漸く秋色濃厚。

予科高商戦小樽花園ぐらんにて行わる。予科の大勝利。

夜七時より特別室にて休み明けの最初の公式コンパを行う。大鐘君、山根君の交互照会あり。四月入舎の大鐘君には山根君は初めての人である。この会の最中、水産マン二人、増井、秋葉君帰る。会の賑かなる事限り無し。毒舌、饒舌、実に和気藹々たりき。十時半解散。

37コマ目

コンパの材料

- 一、リンゴ若干。時期尚早の感あり。
- 一、西村の洋生。一円見当。
- 一、塩センベー2種
- 一、お茶

いよ／＼明日より学部も授業開始だ。

9月11日(月)晴

天高く馬肥ゆの候が正に将にやって来た。おゝ何んと素晴らしき澄み切った秋晴れの日であった事よ。

早朝永井君、農芸化学の地質旅行の一行に加って支笏湖、登別方面に向う。本夏も桜林君と支笏湖に行った同君さぞかし車中リーダー振りを発揮せる事ならんと専らの舎内の噂。

舎内予科ボーイ少く、好例の対高商戦の戦況を直接に知る由なく真に残念。恐らく前例により予科は本日戦勝休日なる可し。

本日より始りたる学部の授業状況は例により工学部を以て憂鬱さの最高レベルとす可し。次いで医、農か。理は未だし。

本日かの五・一五事件の海軍側の刑罰判定あり。死刑3名、無期禁固数名を数え社会に一大衝動を与えたるものゝ如し。タイムスタ刊は其論告を以て全紙を覆う有様なり。

38コマ目

9月12日、火、晴、22

彼のネボー揃いの舎も近頃断然成績よく、7時半頃には凡ての窓より朝風の訪れあるを見たり。

本日も引続き破天荒の晴天。

町に漸く美術の季節到来せんとす。学内又油絵に親しむ者の姿多し。

本日正午、元十四旅団長、服部少将、宮本、米山、両隊長札幌に来る。之が歓迎に駅前停車場通りは官公中・専・大学生を以て埋りたるとか。

思い起す、去秋のかの長き列車の窓々より悲壯の旅路に立ちたる混成旅団長配下の兵卒の一顔一顔。其の余韻未だ吾人の脳裏を去らず。

9月13日 水〔ほか記述無し〕

9月15日 金〔記述無し〕

9月16日 土〔記述無し〕

9月17日、日、晴

快晴も快晴。郊外にはピクニックの一群。北大グラウンドにはスポーツを称える青春の一群。碧空を飛びかう飛行機。正に正に秋 闌と云う可し。

街頭の四辻に夜半、トウキビを売る女の姿。これも秋なり。

39コマ目

舎内之が時に如何で徐に穴居するものあらんや。

桜林、長井君等、好例より三角山方面より山葡萄をとり来りて食後の卓上に飾る。

我等が尊愛敬する同志増井君、突如トコヤ小林にて2年有余の苦心の結晶たる美髪をイガグリにして夕食に現る。之れ一大事件に非ずして何ぞや。曰く親不孝の自責の感に堪えず。曰く洋の刑に断髪ありと云々。喧々諤々と諸種のデモ飛びたり。

七時より日基教会堂にて日本宗教会の三村と言わる其の一人、外村氏の「イエスと其弟子」なる説教に大勢出かける。

9時12号にて畑先輩よりの羊カンを中心に一同だべる。藤田康君、夕の急行にて帰る。コンパはオールスターキャストとなり。

9月18日 月 晴

満州事変二周年記念。柳條溝の鉄路爆破事件に端を發せしかの異変。今や着々として陸の生命線として諸種工作事業のもとに平和の光出でんとす。

暁をついて札幌市を中心に防空演習行われ、朝空に機関銃の弾声ひゞき渡る。空に飛行機あり。後に聞くところによれば本社機（北海タイムス曰く）も仮想敵として活躍したりと。

40コマ目

増井、秋葉両水産マン、早朝、忍路実験所へ。約一週間の予定との事。

文武会デーを控え、何処に行こうか？の下話そろ／＼持ち上がる。

9月19日、火〔記述無し〕

41コマ目

9月21日、木、晴

文武会デー第一日。先ず天候に恵れた学内スポーツデーである或はグラウンドに或は学生ホールに各部の催物盛なり。

この日舎生一同午前の半日を舎に過ごす者の午後に至りて折からの天候に乗じてそれぞれ郊外に出かけ秋を享樂したりとか。大島君、製図書きに浮かぬ顔して登校したりと思いきや意外にもアマチュア・ホッケー戦に出場して準決勝迄進めりとか。全く意外な活躍振とて疑を懐く者甚だ多し。

夜、中央講堂にて活動写真あり。若松、山根、大島君等出かける。文武会デーにトーキーをやるとは甚だ進歩的の考えなれどドラマ的の独映画「不滅の放浪者」は見られるとして日活の「春と女」松竹の「生残った新撰組」等余りにも文武会理事の選択振りたるや無慘なり。

9月22日、金

文武会デー第2日なり。文武会デーとは文武会絡みの催物。理事者の苦心に無關心なるものにとりては全く「引続く休みが来たな」一位しか感ぜず、又当然自分に与えられたる自由休にしか考えぬ。依って以て文武会其のものが衰退する一大原因である。

舎内、誰とて積極的行動を外に表するもの無く、内にこそ／＼暮す大部とはいと悲しき事なり。

9月23日、土

秋季皇霊祭の休日を利用して秋期旅行断行さる。

行詰まれる旅行地先の新路開拓の一案としかねて懸案中なりし錢函峠越、ヘルベチヤヒュッテ訪問、自動車にて定山溪に出ずる道をとるべし。山根君、大島君を残して八時の列

車にて札幌発。例年の如く鍋をかゝえ肉をたずさうるに非ざればいと皆々身軽なり。出立時の好天はこの度の旅行に恵を給えしものゝ如く見えしが意外なり悲し一行銭函峠の姿を目前に見つゝ降りしきる雨のため遂に意半ばにして帰札せり。この為一張羅をまといて一君、其他の面々、大いに天をうらみたりとか。

然し晩は予定の如く恰も行程を完結せしものゝ如くスキ焼に舌づゝみせり。肉に飢えたる永井、若松、藤田(一)、大鐘の諸君スキ焼の過ぎし量を食堂にて腕力に比較し居れり。製図に血眼の大島君傍らに独り鍋をかゝえて之を苦笑見学。

9月24日、日

日曜にも拘わらず大島君登校。

9月25日、月

休み明けの登校。一回新しき気分を得たるものゝ如くこの日至ってなごやかなり。

43コマ

26日〔記述無し〕

27日〔記述無し〕

10月1日(日)晴

好天。折から部屋替え一時季とて秋葉、大鐘、藤田、大橋の諸君、移動を行う。午後或いは三角方面に或いは町に各々好むところに赴く。

大島君この日早朝珍しくもナーゲル姿にて札幌岳に向う。希有の好天に遥かに噴火湾、苫小牧製紙工場の煙突を見しとか夜帰舎するやその鼻息の物珍しさ。

舎の近隣における盗難事件ありとか、副舎長よりの注意あり。

月次会の余物にて各部屋、会合に賑う。

44コマ

10月2日、月、16度、晴

昨日に引続き快晴の秋晴れであった。朝夕には殊更に身に冷感を感じるに至ってくる。部屋に火鉢をかゝえこむ者多し。漸くプロートの集い盛んとなる。

蓄音機修繕なおる。然るにシゲティエのバイオリンコンチェルトの一部のみ回転が変調となるは不思議な次第なり

中秋の名月は4日とやら。今夜は又実に素晴らしき名月なり。豊平川畔に月見の告示出る。盛んなれかし。

10月3日、火〔記述無し〕

10月4日、水、悪天。

朝来雲行き香しからず。絶えずしぐれては照る狂乱日和に遂に中秋名月の宴は寄宿舍食堂に於て開かれたり。前日来食事部、運動部の合同労苦たるや実に泡の如く無惨にテーブル上に消えて、いたずらに月をうらみたりと云うべし。

この日折しも広瀬君あてに在京の畑先輩より新栗の優待あり。札幌のトーキビ、サトイモ、

エダマメ、ダンゴ、オハギに混えて其新鮮な味を評価す。この卓上、永井君のハツラツさたるや実に物凄き様たりき。

45コマ

過日来滞札中の先輩、近藤七郎氏夜の急行にて離札さる。広瀬、藤田、若松の諸君、停車場に至る。大島君遂に列車時刻に遅れて姿を見せず。駅頭宮部先生其の他美術部関係の学生数人より見えず意外な物淋しさなりきと。かゝる場合に舎生は回避的な遠慮をせずに積極的意見を表面すべきである。見送人に圧倒されるとの故を以て第三義的に由々しき解釈を下すは舎生対先輩の間柄を無視するも甚だしきものと云う可し。

近藤氏帰京に当り舎に洋画二折の寄贈あり。一つは沼津海岸の風景、一つは荒川下流情景。在来の京都郊外の秋景の一折はジャガイモ、油等にて更正して舎におよそ似合ぬ。堂々たる額が三様かゝげられる事になりたり。

10月5日、木

終日小雨ふりしきる。北国の秋はかくして晴れかくして曇りかくしてふる。定めなき空模様実に日 燈の如し〔ママ〕と云うべし。舎内平穩。

10月6日、金

寒さは漸次度を加え、今日のそれは実に度を越しかと思われる程なりき。各部屋火鉢に炭を赤々とおこして台所との往来繁ぱんなり。工学部、試験期を控えて山根君、一君、大島君頑張る。

46コマ

10月6日 土曜、晴

強引に働く舎生を圧倒するが如き女中が 石炭屋の照会に来て増井君、永井君のキモをぬかして居る。ブッキラ棒の時はともかく在来のタイプを脱した珍人の到来と云う可し。一君、教会のバザーに活躍、甚だ盛会なりしとの事。

10月7日 晴

一週をめぐってこの日曜日、又素晴らしき秋日和なり。憂鬱な数日の重い気分を一掃するに余りある良き休日なりき。

早朝桜林君、赤岩にロッククライミングに出かける。午後に渡って増井君、若松君等藻岩、三角方面に出かける。市内も相当の人出。

林檎は今や十九号の全盛。ペヤー〔梨〕も出て、今や果実戦線大いに異常有りというところ。

桜林君の帰舎おそく一同心配す。ラヂオにて目下来朝中の〔イグナツ・〕フリードマンのピアノをしんみりときく。増井、若松、永井君、大島君等、〔藤田〕康君の手になりたるラヂオセットの前に一言も発せず聞き込む。

10月8日 月、晴

桜林君、赤岩をふく事ノヽ。永井君、例に依って例の応答ぶり。なかノヽさばけたものなり。工学部いよノヽ10日より試験始るとか。記念祭を向えて、それノヽの役割既には

りださる。

招待部 大島、若松、山根

装飾部 桜林、増井、大橋

響応部 藤田(一)(康)、永井、秋葉、大鐘

総務 広瀬

余興を取止めてレコードコンサートを催さんとの意向なり。

10月9日、火曜、曇後雪〔ほか記述なし〕

10月15日(日)

快晴と称す可きか。永井君早朝遂に札幌嶽にアラインゲーエンとは同伴者、康君。強制的

ノックにも遂に馬耳東風然とせしに依る。康君、後に曰く「とう／＼出かけたなー」。

ニギリメシをかゝえてそれでも残念そうな所一つもなし。

桜林君、珍しく教会に行く。世はドイツが連盟を脱退したとかで大さわぎなり。

秋葉君この日も又軽川に兎狩り。11匹の収穫ありとか。

10月16日 月曜 晴

工学部は本日より28日迄試験が行わる。舎内工学部生のトップを切って大島君、出陣。

形勢如何に？

広瀬君床を蹴って着替え中を突然宮部先生に飛び込まれ大失態を演じたとか。今朝の出来

事の一つなり。午前七時半というに舎生何れもカーテンを下して白河夜船と来ては宮部

先生にも驚愕なされた様子。けだし先生所用のための来舎で別に他意なしとの事なれど

実に面目なき次第なり。

タイム上〔ママ〕、札幌農学校第二期生、世界的常識者を以て知られたる新渡戸稲造博士の

訃報に接す。日本は一人の国際政治家を失いしと同時に我等は我等の尊敬せる偉大なる

先輩を失ったのである。

49コマ目

既に二期生として残れるは青年寄宿舎々長、宮部先生並びに南〔鷹次郎〕総長、及町村金

弥氏のみ。

10月17日、晴

祭日なれば休校。

桜林君永井君康君を以て計画せるアシリベツ登高も再度の降雨に出発を阻止せられ遂に中

止、断念の終末に達したりしと云うに今日のこの天気たるや誠にうらやむべし。

広瀬君、三越にてペイントを求め、試験的に特別室に塗る。結果は不明。2、3日待つべ

しとの事。成功の暁は30年来の壁が全部再生するわけである。秋葉君定山溪より夜帰

る。

10月18日、水

〔藤田〕一君、山根君、大島君朝から午後にかけて何れも出戦。初経験を食卓時に語る一

君、意気揚々たる感あり。

ドイツが連盟を脱退したとて、世は混然とせるかと思えば我が日本、ロンドン条約の結末を巡って政党、軍部間に議論フンブンたり。

モギレフスキー〔アレクサンドル〕のバイオリンソロが来る27日当札幌にて行わるとの事。

10月19日、木曜

記念祭を控えて先ず接待部活躍し始む。北一条のリースの隣りの印刷所に例年の通り原稿を持ち込んで本日は第二校をすませる。

例年ながら内容に大差なく、本年卒業せる諸氏の手許にとどくるには苦美苦笑の一物であろう。但し「先輩諸氏の御重育の下に、」の一項が支持されて居るのは、現事を率直に表現した本年の新作である。

農学部の改築工事、最近とみに進行の様子。かのローンも今は馬脚、轍にふみにじられて実に無惨なる姿である。

10月20日 金曜 晴〔以下1週間記述空白〕

10月28日、土曜日

長き奮闘戦に頑張り通して工科マン今日より秋の休みに入る。

山根君、藤田君は午前中に終了せしも大島君のみは勝敗一戦にありと午後より出陣。正に悲壯の体なりしが大部苦戦であつたらしく、晴々した様子が見受けられぬ。然しさすが安堵したものか、工科マン、揃いも揃って頭がきれいである。

康君一日がかりでカマドの傍らでゾンメルシーの製作に余念がない。明日のムイネ行に使用すべく出来上がったものは正に天下無比の珍物である。

10月29日 日曜日

早朝桜林君、永井君、康君、ゾンメル担いで初冬のムイネに出掛け夕刻トッブリ暮れて帰る。なにしろ昨夜は2時近くまで駄弁り込んで居るしそれに天候も香しくなかつたので果して断行するやと思ひしも朝起れば実に鮮やかな出立跡。天候は申し分なく十分にゾンメルを享樂せしものと期待せしも、午後よりの急変せる空模様にもムイネ山頂にて実に意外な

る猛吹雪に遭遇し危く立ち往生せんとせし由。不十分な睡眠に一同心配せしもマズノ無事に帰舎して幸であった。以後山に登る前夜は十分熟睡すべきである。康君ゾンメルの効果は十分と力説せしも永井君と共にその疲労の度極に至りしかの如く見えしもいとアハレなりし。

ラヂオ、放送交響楽団の伴奏にてベートーベンのピアノコンチェルトあり。増井君、康君のラヂオにて傾聴。大島君何処よりかインチキ遊び道具をもち来り。一同にヤレノとふれ回る。

10月30日 月曜

工科が休みなのか、舎の情勢はまるで学内全般に渡って休日であるかの如きである。昨日ムイネに行った連中、今朝はいずれも遅く、康君の如きは実にベッドより3時過ぎに出

て来る様なり。余程痛烈にアルバイトが答えたらしくある。

各部屋にストーブの取付を完了し炭火に代わって半年の親しみある温さに接し得て舎特有の雰囲気構成し始めた。

石炭が本年は昨年に比し一割高との事で一同節約すべく、副舎長よりの告知あり。大鐘君、初見のストーブの取外しタキツケ法第一課のコーチを受けナルホドノ＼と感心する。たのもしき景である。外はストーブをたくにふさわしき寒さである。

10月31日 火曜

記念祭を目前に控え各部の動き漸く明瞭となる。

夜特別室に一同会して対策を練る。少人数では例年の如き大掛の余興も出来ぬと云う事で広瀬君の発案で当夜はレコードコンサートを催す事になって居たのだが、余り内容が単純化され易い傾向あるところより多少なりとも変趣を加味したいとの目的で合議せし結果大体次の如き案を生む事が出来たのは嬉しい。

- 一、広瀬、大島両君のギター伴奏によるソロ
- 一、秋葉君の尺八
- 一、若松、秋葉、桜林君の寸劇
- 一、桜林君のヴァイオリンソロ
- 一、藤田一君主催の福引案

接待部本夕西村洋生店にデコレーションケーキ30注文。響応部

五番館より天火を新調して既に待機。危念された〔ママ〕記念祭もかくして色取られて行く。夜は既にオーバーの季節である。月が冴えて鮮やかなり。